

ひまわり

令和8年2月号

『失ったものを数えるな。残された機能を最大限に生かせ。』

校長 門脇 伸也

2026ミラノ・コルティナ冬季オリンピックが閉幕しました。日本選手の活躍に心が躍りました。そこに加えて、本校の生徒・教員は、2月14日(土)に行われたハンドサッカー大会の話題で、いまだに盛り上がっています。駒沢体育館(世田谷区)で東京都にある肢体不自由特別支援学校を一会場へ参集しての大会運営は、5年振りとなりました。駒沢体育館の大改修のため、コロナ明けに武蔵野の森総合スポーツプラザ(味の素スタジアム隣・調布市)や2~3つの地区に分けて都立特別支援学校を会場に使用するなどしていましたが、ようやく本来の場所へ戻ってきました。本校に限らずたくさんの教職員が、運営や引率で参加しましたが、初めて参加するという教職員もたくさんいました。以下は、本校2名の教員の声です。

教員①「Sさんは、終始、やる気いっぱい満面の笑みでした。2回のシュートチャンス、どちらも点数は入りませんでした。ボールをよく見て、まっすぐ進むことができました。頭を上げ、目線をボールに向けて、良い姿勢によりウォーカーで力を入れて歩行が出来ました。練習の成果は十分に発揮できたと思います。中学校生活を通して取り組んできた、ボディコントロールの集大成でした。自分のやるべきことをよくわかって、待機したり、出番で前に出たり、見通しをもって取り組むことができていました。3年間の成果だと思います。」

「Kさんは、にこにこ顔で保護者の方を見て、『がんばるねー!』と伝えていました。2回のシュートチャンスがありましたが、1回目はボールをもって枠から出てしまいました。しかし、2回目は気持ちを崩すことなく、うまく切り替えて見事に点数を入れることができました。点数が入ると、保護者の方と私の方をすぐに見て、『やったー!』と喜びを表していました。」

教員②「相手チームの活躍にも拍手等の賞賛を送れるチームになって良かったです。Yさんが、同じチームの桐ヶ丘、永福の生徒の名前を呼びながら、がんばれー!と応援している場面もあり、合同チームの良さやスポーツの良さを感じました。3年生にとっては最後の大会でしたが、本当に良い機会でした。永福に行ってもやりたい!という声もあり、部活動があつて良かったと思います。大会運営に関わってみて、他校との連絡や都立学校との違いなど大変なことが多かったですが、喜びの声や歓声、特に表彰された人の嬉しそうな顔や声、仕草を目の前で感じることができ、頑張つてよかったと感じました。今年は、昨年度より土曜日の練習を増やし、新たにIncluFESというイベントに参加しました。より多くの試合経験を積むことができ、特に3校合同チームの一体感が増したように感じました。選手だけでなく保護者や教員の中でも、『他校』より『チーム』の認識が強くなったと思います。お陰で、昨年度より様々な先生方と仲良くなれました。」

ハンドサッカーは、車いすの生徒たちが、みんなで球技がしたい、なら、つくってしまおうということで、教員が試行錯誤した結果生まれたものだといわれています。

まもなく、ミラノ・コルティナの冬季パラリンピックが始まります。「失ったものを数えるな。残された機能を最大限に生かせ。」、パラリンピックの父・グトマン博士が残した言葉です。今ある力をもっと引き出すための工夫があり、技術があると捉えるなら障害のあるなしにかかわらず、目に見えることを受け入れていけるはずです。

子どもたちの力を伸ばすために工夫をし、新しいものを取り入れていく姿勢、それが本校にもあります。

もうすぐ春です。待ち遠しいですね。今後とも皆様の御理解と御協力をよろしく願います。



本校生徒のシュートの光景

「連合作品展」

1月28日～2月12日まで、新宿中央公園内のエコギャラリーで連合作品展が行われました。

こすもす1グループは身近な廃材を利用したオリジナルモンスターやバブルガンを使ったシャボン玉アートを展示しました。こすもす2グループは、リースやお花紙で作成した紫陽花を飾り、低学年つくし・ばらグループは、紙すきで作った紙を使ったお花、フルイドアートの2点の作品を展示しました。高学年つくし・すみれグループは、立体的なお面や食べ物をモチーフに紙粘土で作ったごちそう、陶芸作品のシーサーを展示しました。中学部は、ゴッホの作品をテーマに描いた平面作品と、埴輪の立体作品を展示しました。訪問学級は、地元調べ発表や毛筆の書初めを展示しました。



今年度も直接見学することができ、自分たちの作品はもちろん、新宿区内の支援学級の児童・生徒の作品も見学できる良い機会となりました。自分の好きな生き物の作品を見つけたり、光沢のある作品を見て目を輝かせたり、それぞれが楽しんで鑑賞することができました。

「東京都肢体不自由特別支援学校ハンドサッカー大会」

2月14日（土）に駒沢オリンピック公園総合運動場体育館で、第37回東京都肢体不自由特別支援学校ハンドサッカー大会が行われました。今年も、永福学園と桐が丘特別支援学校と3校で合同チームを組み、新宿養護学校からも6名の生徒が参加しました。

12月から、毎週土曜日の永福学園での合同練習、東洋大学で行われたIncluFES、更に、保健体育の授業でも練習を重ねてきました。



大会本番は、緊張感のある中でも生徒たちはとても堂々としており、待機エリアでボールを待つ姿や、シュートをする姿がとても輝いていました。Aチームが風神リーグ第3位という成績を残し、Bチームも予選リーグで一勝することができました。いつもとは違う環境の中で、それぞれの課題に向き合ったり、他校の生徒と協力し合って練習や試合に取り組んだりしたことは、とても貴重な経験になったと思います。

※肖像権の関係で、左写真には5名の生徒が写っています。